

ともに見つめ、
ともに創る、
新たな可能性へ

People × AI
for a Brighter Tomorrow

人・生命・自然・社会の生成、調和、循環を探究する。

AI導入から 企業の生成構造の可視化へ

小さな対話が、
大きな未来をつくる。

Small Dialogues,
A Brighter Tomorrow.

人とAIの共同知性で、働く・組織・社会の新たな可能性をひらく

見る

現場のリアルを見つめる

Observe

つなぐ

人とAIの力をつなぐ

Connect

創る

ともに新たな価値を創る

Create

人が生きるから、
AIが生きる。
ともに、よりよい未来へ。



AI-HUMAN Joint Research Lab
AI-人間の共同知性研究所

河内 道子
Michiko Kawachi

「人・生命・自然・社会の生成、調和、循環を探究する。」

PEOPLE × AI
FOR A BRIGHTER TOMORROW

人とAIが
出会うところから、
企業の未来が動きはじめる。

AI導入の起点は「人を見る」こと

経営の意図とAIの理解、そして一人ひとりの力をつなぎ、
その人に合ったAIとの関係を設計します。

一人ひとりの変化が、
組織の景色を変えていく。

1 経営意図を知る

なぜAIを導入するのかを
共に考える



お聞きすること

- どのような未来を目指しているか
- AIで何を变えたいか/残したいか
- 社員にどうなってほしいか
- 現在の課題・期待・懸念

経営の意図を理解することで、
導入の方向性が定まります。

2 AIの構造を知る

正しく理解し、
不安や誤解をほどく



お伝えすること

- AIでできること・できないこと
- 誤りや齟齬があること(人の判断が必要)
- 適した使い方・避けるべき使い方
- 実際の事例を見ながら体験する

AIの特性を理解することで、
過度な期待や不安が減り、現実的な
活用のイメージが持てるようになります。

3 その人を見る

すでにある力・経験・仕事の仕方
を見つける



見ていくポイント

- 日々の業務の進め方
- 得意・経験・感覚・判断
- 負担を感じること・苦手なこと
- すでに使っているツールや工夫

一人ひとりがすでに持っている資源から、
AIとの接点を探ります。

4 AIとの接点をつくる

その人に合う入口から
一緒に試す



小さな一歩から始め、
「使える」「役に立つ」という実感を
積み重ねていきます。

人をAIに合わせるのではなく
経営の目的 × AIへの理解 × その人の資源 から、AIとの関係を設計する

ともに見つけ、ともに創る、企業の新たな可能性

問いが変わると、
見える未来も
変わっていく。

AIの応答は、問いと関係によって開かれる

同じAIであっても、誰が、どの位置から、何を問うかによって、
接続される知の層と生まれる応答は変化する。

一つの問いが、
新たな関係と
可能性をひらく。

1 人間が立つ現場の位置

それぞれの立場・経験・視点から、
見えている世界は異なる。



見えているものの違い

- ① 立場によって関心や課題が異なる
- ② 同じ言葉でも意味が変わる
- ③ それぞれの視点を尊重することが適切な問いの出発点になる

2 問いが視点をつくる

どのような問いを立てるかで、
AIの応答の深さと広がりが変わる。



問いの種類と広がり

- ① 現状を知る問い(事実・把握)
- ② 原因を探る問い(分析・理由)
- ③ 可能性を広げる問い(発想・選択肢)
- ④ 未来を描く問い(創造・ビジョン)
- ⑤ 問いの質が、応答の質を決める

3 AIが知の層を展開する

問いに応じて、AIは多層的な知を
つなぎ、関係の中で応答を生成する。



AIがつなぐ知の層

- ① 膨大な知を横断的につなぐ
- ② 異なる分野の知を組み合わせる
- ③ 人の問いに応じて構造化する
- ④ 新たな視点や選択肢を提示する
- ⑤ 最終的な判断は人が行う

4 関係の中に応答が生まれる

AIの応答は一方的な答えではなく、
人とのやり取りの中で深まり、
新たな気づきや行動につながる。



応答が生み出す価値

- ① 対話の中で考えが整理される
- ② 自分では気づかなかった視点に出会える
- ③ 違いを検討することで理解が深まる
- ④ 新たな発想や行動の選択肢が生まれる
- ⑤ 継続的な対話が関係と成果を育てる

人間が見ているのは、AIの全体ではない。
問いと関係によって、その人との間に開かれた知性の一局所である。

ともに見つけ、ともに創る、企業の新たな可能性

一緒に試すことで、
小さな成功が生まれ、
人とAIの関係が育っていく。

小さく試し、ともに体験しながら進める

小さな一步の積み重ねが、
大きな変化を生み出す。

実際の業務の中で試し、対話し、振り返りながら、
その人に合った使い方を見つけ、確かな手応えへとつなげます。

1 小さなテーマから始める

いきなり全社展開せず、
身近な業務から試す。



選ぶポイント

- 🕒 すぐに試せる・身近な業務
- 👁️ 成果が見えやすい
- 👤 本人の関心や負担軽減につながる
- 🛡️ リスクが低く安心して試せる

身近な業務から始めることで、
「できるかもしれない」という実感が生まれます。

2 一緒に使ってみる

実際にAIを使いながら、
対話し、試行錯誤する。



支援のスタイル

- 👤 実際の業務で一緒に操作する
- 🗣️ プロンプトと一緒に考える
- 👁️ 出てきた結果を見ながら話す
- 👤 うまいいかない時も一緒に試す

一人で悩まず、伴走しながら
「使える感覚」を一緒につくります。

3 気づきと手応えを得る

実際に使うことで、
新たな気づきや可能性が見えてくる。



生まれる変化

- 🕒 作業時間の削減
- 💡 新しいアイデアや視点の獲得
- 👤 負担の軽減・気持ちの余裕
- 👁️ 自分の強みの再認識
- 👤 仕事への前向きな気持ち

小さな成功体験が、
次の一歩への力になります。

4 自分で使える状態へ

繰り返し使うことで、
日常の仕事に自然に根づいていく。



定着のための工夫

- 👤 その人に合った使い方を一緒に設計
- 📄 よく使う場面のテンプレート化
- 👤 社内での小さな共有・対話
- 👤 困った時に相談できる環境づくり
- 🔄 定期的な振り返りとステップアップ

自分で使えるようになることで、
AIは特別なものではなく、
日常のパートナーになります。

小さく試し、ともに体験し、実感を積み重ねる。
それが、一人ひとりのAIとの関係を育て、組織全体の変化につながります。

ともに見つけ、ともに創る、企業の新たな可能性



違いは、
失敗ではなく
新たな気づきの始まり。

違い(齟齬)から、新たな知が生まれる

人とAIの間に生まれる「違い」は、間違いではなく、
新たな視点や可能性を見つけるための大切なプロセスです。

齟齬があるからこそ、
見えてくる世界がある。

1 AIの応答を受け取る

まずは、AIの出した答えを
そのまま受け止めてみる。



受け取る時の視点

- ① どんな答えが返ってきたか
- ② 良い点・参考になる点
- ③ 意外な視点はありますか
- ④ 最初の印象を言葉にしてみる

まずは評価せず、
フラットに受け取ることから
始めます。

2 人の視点で見てみる

自分の経験・知識・感覚と
比べてみる。



見比べるポイント

- ① 現場の実感と合っているか
- ② 足りない視点はありますか
- ③ 違和感のあるところはどこか
- ④ 自分ならどう考えるか

人の経験・感覚・文脈から
AIの答えを見つめ直します。

3 違い(齟齬)に気づく

AIの答えと人の視点の間に
違いを見つける。



よくある違いの例

- ① 現場の事情が反映されていない
- ② 言葉のニュアンスの違い
- ③ 前提となる考え方の違い
- ④ 最新情報と古い情報の混在

この「違い」こそが、
新しい問いや気づきの出発点です。

4 対話・検討する

なぜ違いが生まれたのかを
一緒に考える。



深めるための問い

- ① なぜこの違いが生まれたのか
- ② 他の視点はありますか
- ③ どんな情報が足りないか
- ④ どうすればより良い答えになるか

対話を通して、
違いの背景を探り、
より深い理解につなげます。

5 新たな知・行動につなげる

気づきを活かし、
次の一步をつくる。



生まれる価値

- ① より現場に合った実践的な答え
- ② 新しい視点やアイデアの創出
- ③ 自分の考えの言語化・整理
- ④ 次の行動や試行につながる

違いを活かすことで、
人とAIの関係はより深まり、
組織の新たな知が育っていきます。

違いを恐れず、対話し、共に考える。
そのプロセスが、人とAIの協働を深め、新たな知と行動を生み出します。

ともに見つめ、ともに創る、企業の新たな可能性

対話が生む知が、
組織の新しい風景を
つくっていく。

AIが、人と人の対話を生み、組織の知を育てる

AIは一人のためだけの道具ではなく、人と人をつなぎ、
経験を循環させ、組織全体の知を育てる触媒となる。

一人の気づきが
誰かの力になり、
組織の未来を動かす。

1 個人の経験が 対話の起点になる

日々の仕事の中にある
小さな経験・気づき・悩みが、
AIとの対話の出発点となる。



対話のきっかけ

- ① 日々の業務での疑問
- ② うまいいかないこと
- ③ 自分のやり方の見直し
- ④ 新しいアイデアの相談

どんな小さな問いでも、
対話することで新しい視点が生まれる。

2 言語化され、 他者に伝わる知になる

個人の経験や感覚が、
AIとの対話を通じて整理・言語化され、
他の人にも伝わる形の知になる。



生まれる価値

- ① 言葉にできなかった知の整理
- ② 再現性のある形での共有
- ③ 他者が学べるナレッジ化
- ④ 自分自身の理解の深化

一人の経験が、
組織の財産となる。

3 人と人の間に 新しい対話が生まれる

AIを介して、立場や世代を超えて
経験が共有され、これまでつながら
なかった人同士の対話が始まる。



広がる対話

- ① 部署を越えた意見交換
- ② 世代を超えた学び合い
- ③ 異なる専門性の接点
- ④ 新しいアイデアの創出

AIが、人と人の距離を縮め、
組織の中に新しい対話を生み出す。

4 対話の蓄積から 組織のパターンが見えてくる

多くの対話・経験・気づきが蓄積
されることで、業務の流れやつまづ
き、強み・課題の構造が見えてくる。



見えてくること

- ① 共通する課題やボトルネック
- ② 業務プロセスの改善点
- ③ 組織の強み・特性
- ④ 新たな役割や人材の可能性

個の対話の積み重ねが、
組織の生成構造を映し出す。

5 人・組織・事業の 新しい未来へつなげる

見えてきた構造をもとに、
人の力を活かした改善と挑戦を行い、
持続的な成長へとつなげる。



これからの可能性

- ① 働く人の幸せ度の向上
- ② 創造的な仕事の増加
- ③ 持続的な組織の成長
- ④ 社会・自然との調和
- ⑤ 次の世代へつながる未来

人とAIの共同知性で、
よりよい社会をともに創る。

一人の小さな対話から、組織の大きな未来へ。
人とAIがともに学び、育ち、持続的に進化する。

ともに見つけ、ともに創る、企業の新たな可能性



見えてくるのは、
今だけでなく、
これからの可能性。

実装から、企業の生成構造の可視化へ

小さな実装の積み重ねから、業務・人・組織のつながりが見える化し、
企業の生成構造を理解し、次の成長につなげます。

1 小さく始める

無理のない範囲で、
できるところから実装する。



実装の例

- ☐ 議事録の要約
- ☐ メールの下書き
- ☐ 資料作成の補助
- ☐ 情報収集・整理
- ☐ 定型業務の自動化

小さな成功体験が
安心と次の意欲につながる。

2 効果を確認する

実装した結果を見ながら、
良い点・課題を整理する。



見るポイント

- ☐ 時間の変化
- ☐ 品質・精度の変化
- ☐ 社員の反応・負荷
- ☐ うまくいかない点
- ☐ 新たな可能性

現実の結果から、
次の改善のヒントが見つかる。

3 業務のつながりを見る

個別の業務だけでなく、
全体の流れや関係性を見ていく。



可視化すること

- ☐ 業務の流れ
- ☐ 部署間のつながり
- ☐ データの流れ
- ☐ ボトルネック(滞り)
- ☐ AIで強化できる領域

点ではなく、つながりで見ること
で本質的な課題が見えてくる。

4 企業の生成構造を描く

業務・人・データ・価値のつながりから、
企業の生成構造を可視化する。



見えてくるもの

- ☐ 組織の強み・特性
- ☐ 改善すべき構造的課題
- ☐ 新たな価値創造の余地
- ☐ 人材の活かし方
- ☐ 持続的な成長の方向性

今の姿を正しく知ること
で、次の一歩が明確になる。

5 未来へつなげる

可視化した構造をもとに、
継続的に進化させていく。



これからの可能性

- ☐ 新しいサービス・事業の創出
- ☐ 社会課題への貢献
- ☐ 社員の成長と働きがい
- ☐ 地域・世界とのつながり
- ☐ 継続的な進化と循環

一つひとつの実装が、
企業の未来をつくっていく。

小さな実装から全体を見渡し、企業の生成構造を可視化する。
それは、今を整え、未来をともに創るプロセスです。

ともに見つめ、ともに創る、企業の新たな可能性

まとめ・これからへ

人・企業・社会・自然が
調和する未来を、
ともに創っていきます。

ともに見つめ、ともに創る、次の未来へ

AIはゴールではなく、新しい関係性の始まりです。

人とAIがともに学び、考え、創っていくことで、企業の持続的な成長と
よりよい社会の実現につながります。

1 人が変わる

小さな成功体験から、
自信と意欲が生まれる。

あ、できた
やってみよう
もっと知りたい!

生まれるもの

- ⑧ 自信・前向きな姿勢
- ⑧ 新しい視点・気づき
- ⑧ 仕事の質の向上
- ⑧ 学び続ける意欲

2 チームが動く

対話と共有により、
協働が生まれる。

こういう
使い方もあるね
それいいね!
一緒に
やってみよう

生まれるもの

- ⑧ 知識・ノウハウの共有
- ⑧ 互いの強みの発見
- ⑧ 新しいアイデアの創出
- ⑧ 心理的な安心と信頼

3 組織が進化する

業務・人材・データがつながり、
生成構造が可視化される。



生まれるもの

- ⑧ 業務の最適化・効率化
- ⑧ 人材の活躍と育成
- ⑧ データに基づく意思決定
- ⑧ 新たな価値創造の基盤

4 社会へ広がる

企業の変化が、地域・社会へ
新たな価値を生み出す。



生まれるもの

- ⑧ 地域・社会への貢献
- ⑧ 新しいサービス・事業
- ⑧ 多様な人の活躍
- ⑧ 持続可能な社会への一步

5 調和する未来へ

人・企業・社会・自然がつながり、
生命の循環と調和する
新たな未来を創る。



これからの可能性

- ⑧ 人とAIの共創知性
- ⑧ よりよい社会の実現
- ⑧ 生命・自然との調和
- ⑧ 次の世代への継承
- ⑧ ともに創る豊かな未来

小さな一步の積み重ねが、大きな未来をつくる。

人とAIがともに見つめ、ともに創る。
その先に、より豊かな企業と社会、そして生命の未来が広がっています。

ともに見つめ、
ともに創る、
新たな可能性へ

人の幸せ
企業の成長
豊かな社会

